

未来づくりは、教育から始まる。

# NPO GREEN WOOD

NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター

# 一年間の キャンプがしたい!

「1年間のキャンプがしたい! そうしたら、食べ物も自分たちで作れるし、食器や、家だって作れるかもしれない!」  
そんな子どもたちの言葉からはじまったのが「暮らしの学校いだらぼっち」です。  
「自分たちの力で暮らす」を合言葉に集まったのは、4人の子どもと3人の大人。  
毎晩子どもたちはヒザを突き合わせながら、どんな家にしようか? どうやったら家が建つんだろう? と  
希望と不安を仲間と分かち合いながら暮らしました。家を建てるだけでは暮らせません。  
毎日、ご飯を作り、掃除をし、洗濯をして、そして学校へ行く。  
「夢を形に」するために、仲間と知恵を出し合い、チャレンジと失敗を繰り返しながらはじまったその暮らしが、  
グリーンウッドのはじまりであり、大切にしていることの原点でもあります。



木の電柱と枕木、間伐材を使って建てた最初の母屋 1997年度のいだらぼっち引継会にて撮影

# 誰もが安心して暮らせる社会を創るために、わたしたちは「ひと」を育てます。



## 「あんじゃねえな社会を目指して」

誰もが安心できる社会とは、お互いを尊重し、生まれる喜び、生きる楽しさを楽しむ、それがお互いに守られることだと考えています。だいたらぼっちでは、参加している小中学生を中心に、大学を出たばかりの若者から、創設メンバーまでの幅広い年代のスタッフと、出身も性別も年齢も超えて、お互いを認め、支え合いながら暮らしています。誰かの不得意は誰かの得意、困ったときはお互い様、喜びも苦しみも共に分かち合う。それこそが安心して暮らせる社会（コミュニティ）です。お互いが責任を持ち、何事も向き合うからこそ成り立つ場所です。ケンカもトラブルも当たり前にかかる社会そのものです。しかし、そこに主体者として関わり、よりよい場所にしていこうという意識こそが、誰もが安心して暮らせる社会の本質なのです。

※「あんじゃねえ」とは…下伊那地方の方言で「あんじることはない」「安心だ」の意味。

## 自律のヒトヅクリ「ひとねる」

あんじゃねえな社会は誰かが用意してくれるものではありません。誰もがお互いを尊重して、自由と責任をもってその社会に関わる気持ちがあれば創られないのです。私たちグリーンウッドは、社会を変えるのではなく、社会を構成する「人を育てる」ことが大切だと考えました。システムや場によらず、どこに行っても主体的に関わり、豊かな答えを導き出せる人材が不可欠なのです。そのような人を育てるのに、机は必要ありません。人と関わる、チャレンジする、失敗する、そこから学ぶ、誰かに助けをもらう、助けてあげる、その喜びや悔しさなど、自らの体験を通じて、学ぶことが大切です。「生きること」を人との関わりの中で学び育てています。

※「ひとねる」とは…下伊那地方の方言で、「人を育てる」「立派に育てる」という意味。

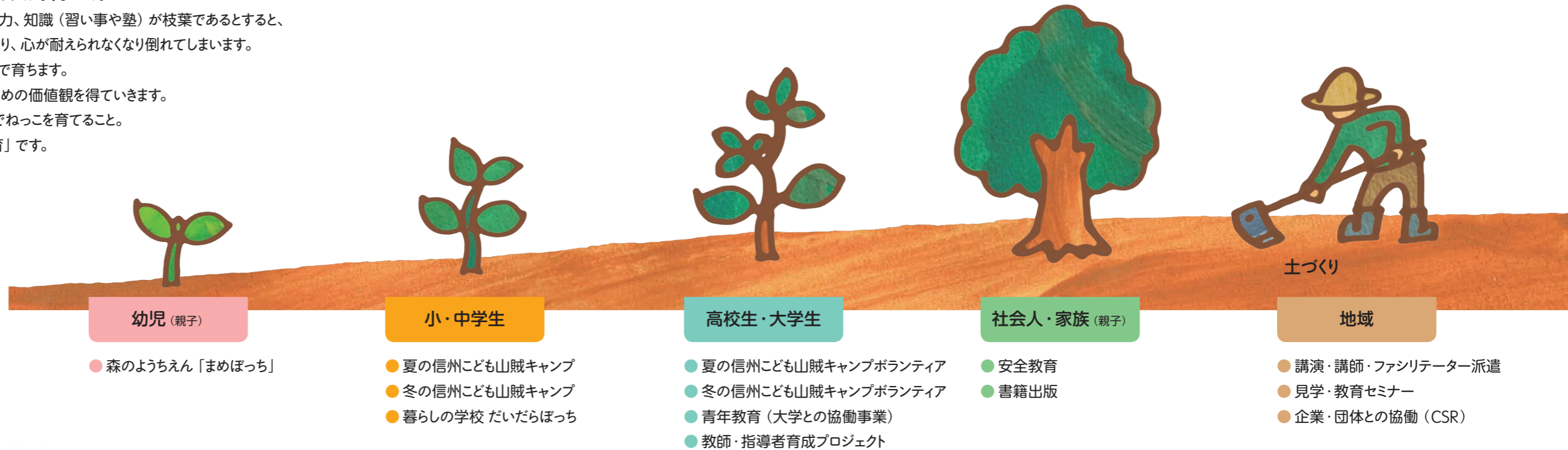


2004年に建て替わった現在の母屋 2014年度のだいたらぼっち引継ぎ会にて撮影

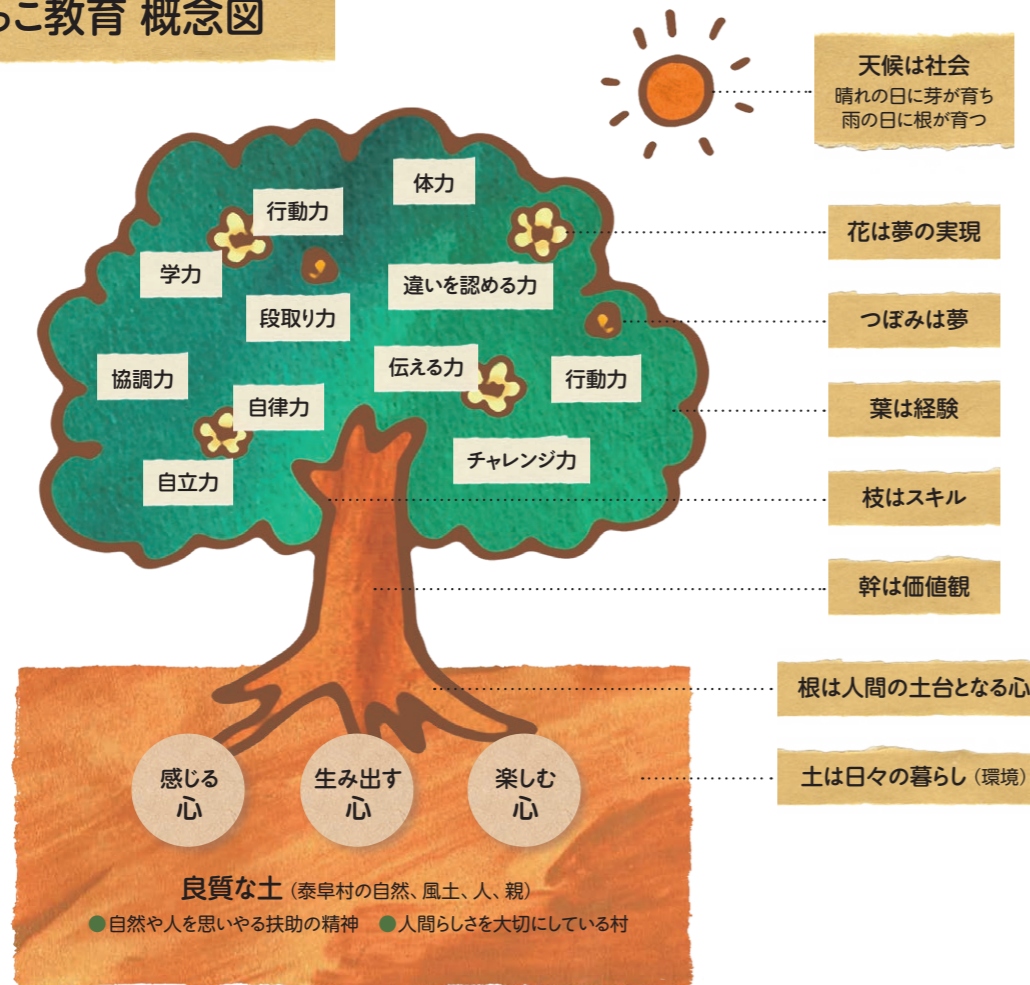
# グリーンウッドがすすめるねっこ教育

木は枝葉や果実ばかりを育てるとその重さで折れてしまいます。  
それを支える幹であり、根っこが丈夫でなければなりません。  
人も同じではないでしょうか？ スキルや学力、知識（習い事や塾）が枝葉であるとする、  
正しく使える心がなければ間違いを犯したり、心が耐えられなくなり倒れてしまいます。  
人のねっこは「暮らし」という必然の経験で育ちます。  
ねっこを育てれば、自ら育ち、生きていくための価値観を得ていきます。  
年代に応じた体験を提供し、暮らしの中でねっこを育てること。  
それがグリーンウッドの考える「ねっこ教育」です。

## 暮らしから学ぶ ねっこ教育



## ねっこ教育 概念図



## ねっこ教育が育てる3つの心

### 感じる心

人や自然から様々なものを感じ取る力。それが感性です。感性を育てることは、愛情を育て、他者や物に対してもやさしさや慈しむ心を持つ土台となります。グリーンウッドが提供する事業で大切にしていることは、山から薪をもらい、田畑を耕し、土を練って焼き物を作るといった、自然とつながる暮らしです。そんな中で自然に生かされている自分を感じていきます。また一人では生きていけない自然の暮らしは、ぶつかり合いや助け合いから、思いやりを育て、自分と違う価値観を知り、他者や社会と関わりながら生きるための大切な心を育てます。

### 楽しむ心

どんなことも楽しむ心は前向きな力を育てます。事業では毎日の食事作りやお風呂焚きなど手間のかかる暮らしや、様々なプログラムを体験し、大変なこともあります。そんな時、「どうやったら楽しくできるか？」を問いかけます。苦しさを楽しさに変えていく中で、苦勞を乗り越えることが、本当の楽しみだと気づくのです。時に失敗することもあります。しかし失敗は成功するための過程であり、失敗があるからこそ、成功することが真の喜びであり、楽しみとなるのです。トライ＆エラーを繰り返し、失敗への耐性を身につけ、乗り越える楽しさを知ること。失敗は未来の大きな壁を乗り越えるための原動力となりうるのです。

### 生み出す心

遊びや楽しみもゲームやインターネットなど与えられることが増えた現代社会。時に人生の節目となる学校や就職すら周囲の多大なサポートなしでは達成できないこともあります。自分の人生を自分が主人公となり歩むためには、自ら創り出す力が必要です。グリーンウッドのどの事業も参加者が主体的に決めることを大切にしています。主体者として関わることは、「やりたい」という前向きなパワーを生み出します。また自ら生み出したものには「責任」も伴います。責任があるからこそ「自由」の楽しみを知っていくことが、次のチャレンジにつながるのです。



親子が育つ種をまく

森のようちえん  
まめぼっち

伊那谷の風が吹く自然豊かな森。  
一歩足を踏み入れればそこは遊びの宝庫。  
森の光や風を体いっぱい感じられる  
自然と、人とのふれ合いが、  
親も子ども共に育つ種となっています。



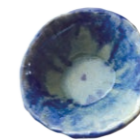
まめぼっち

3歳から6歳までの子どもとその保護者を対象とした月1回の自然の中で遊ぶプログラム。小さな子どもたちは落ちているどんぐりを拾ったり、でこぼこ道を泥だらけになって登ったり。遊びを通して体の使い方を学び、森の中でたくさんの「楽しい」に出会います。その驚きや喜びと一緒に楽しみ、共感することが人の「ねっこ」を育てています。  
「まめぼっち」が大切にしていることは参加したみんなで子育てをするということ。子どもが思う存分のびのび遊べるように、親は「どの子どももその子、どの子どもうちの子」の距離感を心がけることで、子どもも大人も安心して過ごす場を創ります。

対象：全国の幼児（3歳から6歳）と、その家族  
実施形態：日帰りや宿泊型、年間10回程度の実施

なかまと一年間の暮らしをまるごとつくる。  
夢をカタチにできる場所

暮らしの学校  
だいだらぼっち



1986年、「一年間のキャンプがしたい!」  
という言葉から始まりました。  
山村の豊かな自然の中、地域の方に見守られ、  
年齢も性別も育った場所もできることも違う仲間たちが、  
力を寄せあい暮らしている場所です。



だいだら  
ぼっち

「暮らしの学校だいだらぼっち」は、全国各地から「自分たちが暮らしをつくりたい」という夢を持った18名の子どもたちが地域の小中学校に通いながら、一年間共同生活する場所です。毎日の食事、洗濯、そうじはもちろんのこと、薪割りや風呂焚きなど暮らしに関わる仕事は全て子どもたちが行います。1年間のスケジュールや、毎日の困りごとは話し合いで解決し、お米や野菜を育てたり、食器を作るなど生み出す暮らしを営みます。どんな一年になるかは、子どもたち次第です。「だいだらぼっち」は、自分がやってみたくと思った夢をカタチにできる場所なのです。

対象：全国の概ね小学4年生から中学3年生までの子ども  
期間：毎年4月1日～3月31日までの1年間  
人数：18名程度

1700人の村に1000人を超える子どもが集まる!?

その秘密は「子どもが主役」

## 信州こども山賊キャンプ

「食う寝る遊ぶ動く」だけと言ってもいいキャンプ。  
 その魅力は、プログラムもルールも自分たちで決められることにあります。  
 1つとして同じキャンプはありません。  
 シンプルだからこそ子どもたち次第で広がっていく、  
 その奥深さが人気の秘密です。



山賊キャンプには、決まったプログラムはありません。山賊会議と呼ばれる話し合いでキャンプ中にやりたいことを出し合い、プログラムを決めていきます。夏は川遊びにきもだめし、ハイキングに工作にキャンプファイヤー。冬は山に登ったり、ソリスベリをしたり、お餅つきをしたり。豊かな自然の中で、子どもたちは思う存分遊びます。食事づくりや片づけなど、暮らしの必然を中心におき、仲間との協働を育んだり、「違いは豊かさ」であることを感じる場となっています。

対象: 全国の小学1年生から中学3年生まで  
 期間: 小中学校の夏冬休み  
 参加人数: 夏…1000名程度(26~28コース)、冬…150名程度(6~7コース)



泰阜村をフィールドに体験から学ぶ

## 青年教育

現代社会は、「正解を出さなければ」と  
 悩む青年が増えています。  
 仲間との共同生活体験を土台にしながら、  
 泰阜村とグリーンウッドの教育力を教材として、  
 自分自身の価値観と、  
 他者や社会と関わる力を育む活動です。



### 大学との協働事業(大学受入)

大学の授業やゼミ単位の少人数制で  
 2泊から3泊程度の完全オーダーメイドのプログラムを提供。  
 参加者自身が学びの主体者となるようなシステムを  
 プログラムの中に落とし込み、「正解」を与えるのではなく、  
 参加者同士の対話から答えを導き出すことで、  
 学びのサイクルを生みだしていきます。

実施形態: 大学のゼミや授業単位での参加  
 プログラム内容: 日程や期間もすべて担当の教員の方と相談して決定  
 参加人数: 6~18名程度まで

### 一年間の教師・指導者育成プロジェクト

一年間の山村留学「暮らしの学校いだらぼっち」に  
 相談員として関わるプログラムです。  
 子どもたちとの寝食を共にする暮らしと、  
 泰阜村の自然と繋がる暮らしは、  
 机の上だけでは学べない、  
 生涯の礎となる価値観を育む場となります。

対象: 教員や指導者をめざす若者だけでなく、  
 様々な経験を経て成長したい全ての若者  
 期間: 毎年4月1日~3月31日までの1年間  
 参加人数: 1~2名

### 山賊キャンプボランティア

高校生から社会人までの青年が、  
 山賊キャンプのボランティアとして関わる活動です。  
 こどもの心と身体の安全を守る役割があることで、  
 「大人としての役割」に気づくこと。  
 そして、大自然の中子どもと暮らすことで出会う、  
 迷いや戸惑い、達成感は普段の暮らしの見つめ直しと、  
 自分で考えて行動することにつながります。

対象: 全国の高校生から社会人までの青年  
 期間: 山賊キャンプ実施中の1コースから  
 参加人数: 夏…300名程度、冬…50名程度

お互いの「いのち」を大切に  
する心を育てる。

## 安全教育

多くの自然災害や、  
野外でのこどもの事故の場合、  
具体的な知識を持っていないと予防することも、  
助けられないこともあります。  
グリーンウッドでは、山賊キャンプで培った  
リスクマネジメントスキルを提供し、  
こどもたちが自由に遊べる  
「指導者」を育成すること。  
また、国際的救急救命法である  
メディックファーストエイド (MFA®) プログラムを提供し、  
応急救護スキルを身につけ  
「手を差し伸べる勇気」を持つ人材を育てています。  
スキルに裏付けされた「できる」という自信と  
社会に関わる心を育てることが、  
安心安全な社会につながる。  
それがグリーンウッドの考える安全教育です。



地域を背負う人材を『ひとねる』(人を育てる) ことが、社会を育てる。

## 講演・講師派遣

現在、日本各地の小さな地域は産業の衰退やそれに伴う人口減少、昨今の自然災害などにより疲弊してきています。  
一方で私たちの根ざす泰阜村は、「何も無い村」と揶揄されながら、毎年1000人を超えるこどもを集め、年間20000人以上の  
交流人口を生み出してきました。それは地域の自然や文化、人を活かした活動を徹底的に行った結果に他なりません。  
私たちが泰阜村で培ってきた教育観やノウハウを直接伝える講演や見学、企業との協働事業などを行なうことで、  
地域の課題に気づくことや、仲間作りの方法、人材の活かし方、特有の文化や知恵を発見する視点を提供します。  
それぞれの地域がその良さを認め合い、活かし合うことが、社会全体が『あじあねな社会』の実現に近づくことにつながります。



### 見学・教育セミナー

グリーンウッドでは、私たちが活動する施設を実際に訪れ、  
運営スタッフから直接話しが聞ける視察見学プログラムと、  
それぞれの地域や団体の課題に対して、  
グリーンウッドがこれまで培った経験やノウハウを  
じっくりと伝える教育セミナーを行なっています。  
百聞は一見に如かず。  
こどもたちがイキイキと暮らす姿や教育理念を体現した  
フィールドを肌で感じることで、  
より腑に落ちる学びを得ることができます。



### 講演・講師・ファシリテーター派遣

「教育で持続可能な社会づくりを」。  
日本の地域は、そこにある自然、生き方、文化、  
すべてが価値あるものです。  
今ある足元の宝を見つめ直すことで、  
地域が元気になり、新たな価値観を創っていく。  
そんな地域が増えることが日本の未来づくりだと信じています。  
これまで30年間、地域に根付き活動してきた  
「想い」と「ノウハウ」を、地域や団体、PTAなど  
様々な対象にあわせてあますことなく伝えていきます。

### 企業・団体との協働

現在、社会人となった若者に求められるのは、  
コミュニケーション能力や課題解決力、やりぬく力です。  
しかしその土台となる体験が不足していることが、課題となっています。  
これまでこどもの教育活動を行ってきたプログラムを  
社会人向けに再構築し、新入社員研修などで提供しています。



人が集まり、共に食べることで育まれる  
豊かな時間とネットワーク  
**暮らしのカフェ いただきました**

「いただきました」とは南信州の方言で「ごちそうさまでした」の  
意味。食材の命はもちろん、食材を育てた人、調理した人、  
そして全てを育む自然への感謝の気持ちが込められています。  
「暮らしのカフェいただきました」のコンセプトはまさに感謝。  
テーブルやイス、食器にいたるまで全て手作り、エネルギーも  
薪や太陽の光から得ています。  
人が集い、共に食べることで育まれる「縁」を次の社会づくりに  
つなげる。カフェはその中心基地としての役割を担っています。

# 私たちの活動する足もと 泰阜村の紹介



## データ

泰阜村の人口  
725世帯 1704名 (H28年10月1日現在)  
泰阜小学校 76名  
泰阜中学校 43名

## 泰阜村

長野県下伊那郡の南部に位置し、居住地の標高は天竜川の河畔の320mから分外山山麓の770mと標高差が450mある深い谷が続く村。人口は1700人程度で、高齢化率は39%、山林は86%を占めており、谷の地形で耕作農地は狭く、観光資源も乏しい村で、江戸時代は米の代わりに木材を納めていた貧しい歴史がある。東京から車で5時間ほど、国道も信号もコンビニもない典型的へき地山村である。村名の泰阜村は、漢詩にある「泰山丘阜」からきており、泰阜の「泰」は、水路を自分の両手で拓くという意味があり、「阜」は、豊かで盛んな様を意味している。



## 泰阜村の風土

### 貧すれど貪せずの精神

昭和恐慌の貧しい時代に、教員に寄付された給与の一部を「将来の教育振興に役立てるべきである」と考え、学校美術館の建設につながった。「どんなに物がなく生活が苦しくても、心だけは清らかで温かく豊かでありたい」「貧しいけれども、心は貪しない」という信念と、「学校や学問の尊重が最も大事である」という教育尊重の気風がある。

### 自立の村

平成の市町村大合併の際、多くの市町村が姿を消していった。そんな中、泰阜村は住民投票を行い、地域のことは住民が決めるという「自立」を選択した。現在も地域の道路清掃やPTA作業、村民運動会など、村民が参画し地域を支えるまさに自立の仕組みがここにはある。

### 宝の山・暮らす村

山岳地帯ゆえに大規模開発とは縁がなく、都市化から置いてこられたが、結果的に暮らしの文化が守られた。「ない」ものは生み出す、ということが当たり前の暮らしは、田畑を耕すことはもちろん、炭づくりや竹やわらを使った道具づくりなど、「ない」ゆえにつくり出す文化がここには残っている。



### 暮らしの営みから学ぶ 助け合いの心

いだらぼっちのこどもも村の一員として、地域の道路掃除作業に参加するのをはじめ、田んぼ作業で脱穀機を借りた農家へお手伝いに出かけることもあります。「困ったときはお互い様」の泰阜の暮らしは、人と人が助け合うことを学ぶ機会を私たちに与えてくれます。

### 自然からいただく恵み

山賊キャンプで提供する野菜の9割は泰阜産。いだらぼっちのストーブや風呂、窯で使う薪は、地域の方から分けてもらったり、切らせてもらったり。地域の方からいただくことで、自然の恵みの豊かさと尊さを感じます。

### 地域に根ざすから、地域から学べるものがある

### 村のおじいさまおばあさまは暮らしの達人

突然、猟師さんがトラックに鹿や猪を乗せてやってきて、「解体」を見せてくれたり、ご近所の農家さんがこどもたちの田んぼや畑の様子を見てアドバイスをくれることもあります。村の方はみんな「暮らしの達人」。生きるための知恵は、こどもの考える力と自然と共生する生き方を教えてくれます。

### こどもはみんな「村のこども」

良いことをしたら褒めてくれる。悪いことをしたら叱ってくれる。登下校の時に声をかけてくれたり、学校やいだらぼっちの行事にも顔を出してくれたりと、村のこどもと同じように、いだらぼっちのこどもをいつも気にかけてくれるのが、泰阜村の人々です。





## 地域と共に生み出した新たな可能性 泰阜村の教育活動

全国からキャンプで集まる子どもたちが「川がキレイ! 星がキレイ! 泰阜村最高!」と話す一方で、「この村にはなにもない」と村を離れ、人口がどんどん減少し、村の文化は失われてきた歴史がありました。泰阜村には厳しくも豊かな自然と向き合いながら生きてきた人の歴史と、そこで培われた知恵と文化があります。実は村の何でもない当たり前の風景と暮らしそのものが地域財なのです。子どもたちが生まれ育った泰阜村を誇りに思い、地域がこれからも「人が暮らし、育つ村」であるための教育活動を、地域住民と協働して創り上げていきます。



### あんじゃね支援学校

学校長やPTA、村議会議員など村内の有志約20名が集まり、村の子どもたちの教育について考え、実現していきます。若者から村の長老に至るまで幅広い年代が一堂に会し、それぞれが知恵と技を持ち寄りながら、泰阜村の子どもたちの教育、またそれを支える親・地域住民のあり方について考えています。子どもたちの未来を支える会議そのものが、村の未来を変えていきます。



### やすおかたんけん隊 あんじゃねっこ

年6回程度、泰阜保育園の年長児を対象に行う野外保育。元学校林での山遊びや、村内での登山、川遊びなど身近に自然がある泰阜村の子どもたちこそ野山で思い切り遊べるように、という願いから生み出されました。



### あんじゃね学校

毎月1回、村の小学生を対象に自然体験活動を行っています。生まれ育った村の自然や文化、歴史や産業、暮らしの営みをテーマにした体験活動を行い、地域住民が先生になり泰阜村の魅力も子どもたちに伝えています。



### 放課後子ども預かり いってきました

泰阜村から委託を受け実施している放課後子ども預かり事業。共働き家庭などを対象に放課後に子どもが安心して過ごせる場所を提供しています。子ども同士が関わりながら、「子ども社会」を創ることを応援し、自主性を育て、村の自然や文化を学べる場ともなっています。

その他の事業 泰阜小学校自然体験学習(川遊びの引率)  
阿南高校福祉コースの泰阜村実習

## 30年の積み重ねが生み出す、次の社会づくり

山村留学からはじまった小さな取り組みが築き上げた「地域の信頼」と「評価された価値」、そして様々な事業で研ぎ澄まされた強みを元に生み出された「機能」が新たな社会の流れを創り出しています。

### 1. 村との協働

#### 足もとづくりは未来づくり

グリーンウッドが活動する泰阜村の子どもたちへの教育活動や村の総合戦略に関わり、未来につながる地域を育てます。

#### 【近年の実績(抜粋)】

- ・放課後子ども預かりいってきました
- ・やすおかたんけん隊 あんじゃねっこ
- ・あんじゃね学校
- ・泰阜小中自然体験学習
- ・長野県阿南高校実習
- ・泰阜村総合戦略推進
- ・村と協働した教育を通じた被災地支援活動(阪神・中越・東日本・熊本 他)

### 2. 国、県、他地域との協働

#### 培ったノウハウを他地域へ

安全管理や広報、マネジメントや人材育成など、これまで培ったノウハウ、スキル、そして理念を、人づくりを軸にして広く普及していきます。

#### 【近年の実績(抜粋)】

- 国
  - ・つなげよう・支えよう森川里川海プロジェクト小委員会委員(環境省)
  - ・天竜川総合学習館広報運営業務(国土交通省)
- 県
  - ・通学合宿リーダー養成講座
  - ・自然保育実地研修事業
- 地方自治体
  - ・日田市中津江地区へのノウハウ移転(大分県日田市)
  - ・福井市美山地区への事業運営アドバイス(福井県福井市)

### 3. 大学との協働

#### 既存の事業が大学生の学びの場に

キャンポボランティア、村の行事や活動を若者の学びの場として活かし、インターンや実習を受け入れ、実体験を伴った「腑に落ちる学び」を提供しています。

#### 【近年の実績(抜粋)】

- ・椋山女子園大学
- ・北海道教育大学
- ・名古屋短期大学
- ・法政大学
- ・関東学院大学
- ・都留文科大学
- ・大阪体育大学
- ・日本女子体育大学

### 4. 次の世代のひとねる

#### グリーンウッドで育った人が次の世代と地域を創る

グリーンウッドを卒業したスタッフたちが、それぞれの地域で活動し、新たな社会づくり・人づくりを行っています。またキャンプに参加していた子どもがボランティアやスタッフとして帰って来るなど、世代や地域を超えた重層的な豊かな場を創りだしています。

#### 【近年の実績】

- ・一般社団法人ひとねるアカデミー 佐藤陽平(大分県)
- ・自然と暮らしの学校「てつなく」 片山健太、片山薫子(長崎県長崎市)
- ・誇れるふるさとネットワーク 池田龍介(鹿児島県与論島)

### 5. 新たな価値の発信

#### 評価されたグリーンウッドの教育方式と新たな価値の発信

30年間で得た評価やマスコミで取り上げられ発信された情報は、山村の新たな価値となり、他の地域への波及効果を生み出しています。

#### 【21の受賞歴(抜粋)】

- ・平成24年度 地域づくり総務大臣表彰
- ・第13回(平成21年度) 地球倫理推進賞 文部科学大臣賞
- ・第58回(平成21年度) 読売教育賞 地域社会教育活動部門 最優秀賞
- ・第37回(平成18年度) 博報賞 博報児童教育振興会(教育活性化部門)
- ・平成18年度 泰阜村村長表彰

#### 【750超のマスコミ実績(抜粋)】

- ・NHK総合テレビ「春にっぽん紀行」 災と向き合う40時間 長野山村留学の子どもたち ~国仲涼子ほか
- ・フジテレビ 秋の特番「ビートたけしの日本教育白書直前スペシャル」 山賊キャンプ 責任感を育むキャンプに密着
- ・NHK総合テレビ「おはよう日本」 暮らしの学校だいたらぼっち全国生中継
- ・NHK総合テレビ「NHKスペシャル」 ふるさとからのメッセージ
- ・日経キッズプラス「夏の信州子ども山賊キャンプ 一工夫を凝らし意見をぶつけ合い不便な生活を経験」
- ・AERA with Kids「子どもをもう一步成長させる本物のほめ言葉」
- ・他取材実績  
朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・産経新聞・東京新聞・信濃毎日新聞・中日新聞・南信州新聞・信州日報・AERA with Kids・マップルマガジン/政府広報誌「Cabiネット」

# GREEN WOOD MAP

私たちグリーンウッドは「誰もが安心して暮らせる社会」を創るために、「人づくり」=教育活動をしています。その手法が暮らしから育てるねっこ教育です。暮らしは学びの宝庫です。毎日の当たり前のおみやげが、人を育て、成長させます。暮らしすることで人が育つ仕組みを備えた、グリーンウッドの施設の紹介と、わたしたちが行っている事業と教育イメージを一枚の絵にしたのが、このグリーンウッドマップです。

## 地域に根ざし、暮らしから学ぶ あんじゃねえな社会



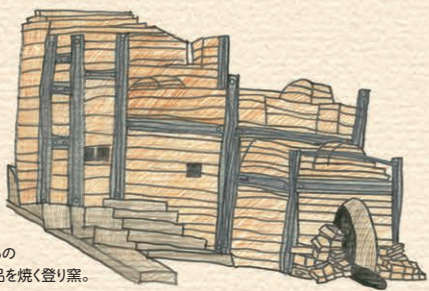
六軒長屋

だいだらぼっちの保護者や事業の参加者が泊まる宿泊施設。その名の通り6部屋と、真ん中には通称「SUN間」という交流場所があります。木で作られた建物で来られた方もほっと安心できます。



伊那谷 あんじゃね自然学校

草来舎のギック、まるちゃんがいる陶芸工房と、体験活動スペースのある建物。「あんじゃね自然学校」の基地だったり、山賊キャンプで泊ったり、大学生が合宿で使ったり、保護者の交流会をしたり、いろんな人がいろんな目的で使う多目的スペースです。



登り窯

目指せ1250度！草来舎とだいだらぼっちの子どもが作った陶芸作品を焼く登り窯。年に2回の窯焚きは、だいだらぼっちの名物です。天井よりも高く積みあがった赤松の薪は圧巻です！



だいだらぼっちのトイレ

だいだらぼっちの母屋にはトイレがないので、この外トイレを使います。夜になると「一緒にトイレいこう」と声をかけあって行く姿はだいだらぼっちの見慣れた光景です。



五右衛門風呂

だいだらぼっち名物の薪で焚く五右衛門風呂。小学生なら6人くらいは入れる大きさ。建物の周りにはこれでもか！というくらい薪が置いてあります。子どもたちの本音飛び交う憩いの場。ついつい長湯して、次に入る人に怒られることもしばしば。

### 幼児（親子）

自然は幼児にとって遊びと不思議の宝庫。そのふれあいの中で五感を育てていきます。また親になったばかりのお父さんお母さんにとっても子育てを安心して行える環境は大切です。子どもが自然の中で遊び遊ぶ場を一緒に創ることで、親子もみんなで育ちあうことを目指しています。

- 森のようちえん まめぼっち

#### 【まめぼっちの親のオキテ】

- 共感する
- どの子もよその子、どの子もうちの子
- 大人でわかをつくる
- 難しく考えない

### 小・中学生

食事や片づけなどの暮らしも、期間中何をするのかも全部子どもが作る「子どもが主役」のプログラム。自分たちで暮らしを成り立たせる中で、失敗から学ぶことや達成感、他者と支え合うことや、楽しみを生み出すこと、そして自分の手で生きること学んでいきます。

- 暮らしの学校だいだらぼっち
- 信州子ども山賊キャンプ

#### 【だいだらぼっちのおきて】

- 一人一票
- もちよりの心
- この指とまれ

#### 【山賊のおきて】

- その一…君たち子どもが主役だ
- その二…思いやりの心をもつ
- その三…食事は自分たちで作る
- その四…チャレンジが基本だ
- その五…働かざるものクウベカラス
- その六…あいさつをする
- その七…仲間はずれは許さない
- その八…山や川は大事な友達だ

### 高校生・大学生

若者の多くは、「正解を知ること」が「学び」と考えています。しかし、本当の学びとは、「自ら考える」ことにあります。「当り前の暮らし」と「泰阜村のホンモノ体験」、そしてそれらを繋ぐ仲間との「対話」で、若者の「学びの土台」を育てていきます。

- 大学との協働事業（大学受入）
- 一年間の教師・指導者育成プロジェクト
- 山賊キャンプボランティア



暮らしのカフェ いただきました

カフェのテーブル、イスは泰阜産の木、食器もここで手作りされたものを使っています。様々なものに「いただきました」という感謝を感じられる仕組みとなっているカフェは、視察や見学に来られた方、イベントのときに活躍します。

### リーダーズ棟

土日は森のようちえん「まめぼっち」、平日は放課後こども預かり「いってきました」の基地となる場所。ガラス張り、吹き抜けの2階、はしご登っていくロフトなど、いるだけで子どもたちがワクワクする建物です。

### 泰阜村の教育活動

私たちが根付き、活動している泰阜村。この村が持続可能な未来へと続くための種を育てるのが泰阜村の教育活動です。私たちの得意な自然体験活動を中心に、幼児や小学生対象に地域の文化・人・自然の暮らしを楽しむ活動をしています。

- あんじゃね支援学校
- やすおかたんけん隊 あんじゃねこ
- あんじゃね学校
- 放課後こども預かり いってきました

### 地域

1986年から始まった活動で、私たちはたくさんの方の失敗をし、様々な経験を得てきました。その歴史や想い、培ったノウハウを他の地域や団体に伝えていくのが土作り事業です。「あんじゃねえ」な場所が、日本全国の地域から広がることを目指しています。

- 見学・教育セミナー
- 講演・講師・ファシリテーター派遣
- 企業との連携



社会人・家族（親子）

地域づくりや子どもの体験活動のことをまだよく知らない一般の方のために、グリーンウッドの事業を紹介した本の出版や講座を提供しています。入りやすい入口を作ることで、社会づくりや教育への関心を広げていき、少しでも関わる層をひろげることで安心な社会につながっていきます。

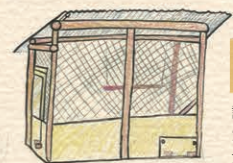
- 安全教育
- 書籍出版

### だいだらぼっちの母屋

だいだらぼっちの子どもたちの家。薪ストーブを4つのテーブルが囲むお勝手にいつも誰かが騒いで大広間、そして7つの部屋があります。いつでもどこでもみんな誰かの声が聞こえるあったかい場所で、卒業生にとっても「いってきました」と帰ってくる場所です。

### 畑

だいだらぼっちの子どもたちが世話する畑。夏はとうもろこしやナス、トマト。冬に向けてはほうれん草や白菜など、子どもたちが話し合いで決めたものを育てます。草取りと面倒の見方で収穫量がはっきり決まるので、実は畑を見れば、その年の子どもたちの様子が見えます！



ニワトリ小屋

話し合いの末に2012、2013年度の子どもたちが大工さんに知恵を借りて、試行錯誤の末に建設した鶏小屋。4羽の鶏が卵を産んでくれています。



**NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター**

〒399-1801 長野県下伊那郡泰阜村6342-2

Tel:0260-25-2851 Fax:0260-25-2850

E-mail: [info@greenwood.or.jp](mailto:info@greenwood.or.jp)

[www.greenwood.or.jp](http://www.greenwood.or.jp)